

がん看護学特論

[講義] 1年 前期 選択 30時間 2単位

《担当者名》○熊谷歌織 [kaori@hoku-iryo-u.ac.jp]
三津橋梨絵 [mitsuhashi@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

既習の諸理論とIntervention Modelの枠組みを活用し、緩和ケアを必要とするがんサバイバー・家族の複雑な健康問題を的確にアセスメントする視点、包括的に支援する方法を探求する（Case-basedディスカッション）。また、この過程において、専門看護師に求められる複雑な現象の理解、判断力および実践力の基礎を修得する。

【学修目標】

1. Intervention Modelの構成要素と枠組みを理解し事例分析に応用できる
2. 既習の理論・モデルを用いて事例分析を行い、がんサバイバー・家族の複雑な健康問題を的確にアセスメントし支援する方法について考察できる
3. がん看護専門看護師としての自身の課題を探求し、具体的な方略を見出す

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	Intervention Modelの概要	1) Intervention Modelの構成要素と枠組みを学習する 2) Intervention Modelの枠組みを活用し事例を分析する方法を学習する	熊谷 三津橋
3) 5	理論・モデルを活用したがんサバイバーの体験理解と看護援助1	1) 既習の理論的枠組みとIntervention Modelを活用し、セルフケア力のアセスメントと援助方法を検討する(Case-basedディスカッション) 2) 自身の実践をリフレクションする	熊谷 三津橋
6) 8	理論・モデルを活用したがんサバイバーの体験理解と看護援助2	1) 既習の理論的枠組みとIntervention Modelを活用し、危機的状況、ストレス状況に対するアセスメントと援助方法を検討する(Case-basedディスカッション) 2) 自身の実践をリフレクションする	三津橋 熊谷
9) 11	理論・モデルを活用したがんサバイバーの体験理解と看護援助3	1) 既習の理論的枠組みとIntervention Modelを活用し、サバイバーの体験を全人的な観点からアセスメント、援助する方法を検討する(Case-basedディスカッション) 2) 自身の実践をリフレクションする	熊谷 三津橋
12	がん看護における緩和ケアの動向と課題	1) WHOの提言から緩和ケアの概念、その構成要素を確認する 2) 緩和ケアの今日的課題に関して、がん看護専門看護師の役割を考察する	三津橋 熊谷
13) 15	がん看護専門看護師の役割と機能	1) これまでの学習にもとづき、複雑な現象の本質に迫る分析力、判断力および実践力とは何かを探求する 2) CNSとしての自身の課題、具体的な方略を探求する	熊谷 三津橋

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

課題レポート（50%）、プレゼンテーション（25%）およびディスカッション（25%）から総合的に評価する。

【教科書】

随時提示する

【参考書】

随時提示する

【学修の準備】

関連資料および図書を熟読して臨む。

【学修方法】

第1回は講義，それ以降は課題に対するプレゼンテーションとディスカッションにより学習を深める

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。